

徳島市民病院だより



〒770-0812 徳島市北常三島町2丁目34番地 徳島市民病院
Tel.(088)622-5121(代表)

平成27年
3号
平成27年1月

徳島市民病院の理念 「思いやり・信頼・安心」

早期胃がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)について

徳島市民病院 内科

大喜田義雄 岸史子

中村文香

胃がんは肺がんに次いで日本人に多いがんです。徳島県でも年間約300人が亡くなっています。近年は検診の普及や内視鏡検査の発達により早期に発見される割合が増えています。さらに、リンパ節転移のない早期胃がんでは、胃の表層を切除するだけの内視鏡手術で根治できることが分かっています。内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)が行われるようになりました。

内視鏡手術は病変が浅く、リンパ節に転移している可能性が極めて小さいと考えられる早期胃がんに行われています。胃がん治療ガイドラインでは、その適応はリンパ節転移がほとんどなく、腫瘍が一括切除できる大きさと部位にあること、具体的には大きさが2cm以内で、がんが粘膜内に留まっていると考えられ、病理組織が分化型といわれるがんで、潰瘍を伴っていない腫瘍とされています(最近ではさらに大きなサイズのがんにも適応拡大が行われています)。通常の内視鏡検査時と同様に口から内視鏡を入れて、モニターに映し出される映像をもとに内視鏡を通して器具を用いて治療を行います。治療は鎮静剤



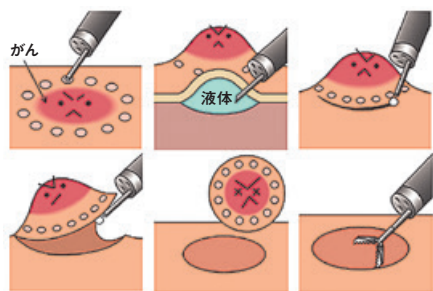
腫瘍や潰瘍痕を伴う例では治療が困難でしたが、ESDはこのような病変にも対応可能で、一括切除ができます。

ESDではまず病変の範囲が認識できるようマーキングを行います。病変周囲の粘膜を切開し、次に粘膜下層を直接観察しながら剥離して切除します(左図)。最終的には、切除した病変の厳密な病理検査で治療の根治性を判断しますので、正確な診断のために病変を一括切除(一つの塊として切除すること)が極めて重要です。がんが取り切れていれば治療終了となりますが、病理診断の結果、がんが粘膜を超えて広がり、リンパ節転移の可能性が疑われれば、外科的治療(追加手術)が必要な場合があります。

偶発症としては、出血(輸血を要する頻度は3〜4%)、穿孔(1〜5%)が主です。

胃がんの内視鏡的治療は外科的手術に比べ侵襲が低く、負担の少ない治療ですが、あくまでもリンパ節転移のない早期胃がんが対象です。

早期発見のためには定期的な内視鏡検査を積極的に受けることが重要です。



ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)

で眠った状態で行います。

内視鏡を用いた治療には従来から内視鏡的粘膜切除術という病変にループ状のワイヤーをかけてしぼり、高周波電流を流して焼き切る方法が行われてきました。ただし、この方法ではサイズの大きな

ピンクリボンフェスティバル2014

昨年10月1日、ピンクリボン点灯式が開催され、病院北側に鮮やかなピンクリボンが浮き上がりました。

10月19日(日曜日)には当院にて、「ジャパンマンモグラフィーサンデー」行事の一環として乳がん検診を実施し、20人が受診しました。



当院の リハビリテーション 部門について



理学療法士 土田 敬

徳島市民病院のリハビリテーションの歴史は古く、昭和43年に開始され今年で、47年目になります。理学療法士、作業療法士が国家資格として制定されたのが昭和40年なので、まだ、「リハビリ」という言葉が一般的でなく認知度の低い時代から行われてきたこととなります。

開始当初は、「整形外科機能訓練室」として整形外科に属し、理学療法士1人からスタート。その後、徐々に人数が増え、私が就職した平成3年には、理学療法士4人で治療にあたっていました。

その後、新病院が建設されることになり、作業療法士、言語聴覚士が新たに配置され平成20年2月、新病院開院時にリハビリテーション科（現 中野俊次総括部長）として独立。同年4月には、理学療法士5人、作業療法士2人、言語聴覚士2人に増員され少しずつ体制が整ってきました。

新病院では、回復期リハビリ病棟が新設されたため、発症後・手術後早期から急性期病棟でリハビリを行っている患者さんがリハビリ病棟へ転棟し、自宅退院に向け引き続きリハビリをすることができるといふ流れができました。

また、紹介元の病院、自宅近辺の病院へ転院される場合は、ソーシャルワーカーが地域連携病院と密に連絡を取り、患者さんに情報を提供し、医師、看護師、リハビリ

部門も診療情報提供書を作成することで、途切れない医療を実践しています。

では、理学療法（PT）、作業療法（OT）、言語聴覚療法（ST）とはどういうものなのでしょうか。

理学療法は、麻痺や骨関節の障害等に対して運動機能の改善、移動動作、歩行訓練等を行い、また呼吸訓練を行ったり活動性が低下した患者さんに対して、筋力や体力の改善を図ることを目的としています。下肢装具の評価、歩行補助具の提案なども行います。

次に作業療法は、作業活動を通して、身体や上肢機能、精神的側面、日常生活・家事・排泄・更衣・入浴・炊事・洗濯などの安全で効率的な方法の検討・練習や福祉用具の紹介などを行っています。

最後に、言語聴覚療法はコミュニケーション障害や、飲み込みの問題に対して機能回復・維持を図るリハビリです。脳卒中の失語症では、話す・聴く・読む・書く等の練習を行います。それらが回らない、声が出にくい等

の症状では、顔・口・舌の運動機能を高め、声や発音の改善を目的としたりリハビリを行います。

また、安全に食事ができ



るような訓練もしています。

当院では、整形外科・脳外科・外科・内科・泌尿器科・小児科・婦人科と多岐に渡る患者さんのリハビリを行っています。その中でも、特に整形外科疾患に対するリハビリが約6割と多数を占めています。早期離床を目標に、手術前、発症後、手術後早期（手術後翌日・2日目）からリハビリを開始しています。現在、理学療法士10人、作業療法士2人、言語聴覚士2人の計14人で、患者さんの機能改善、ADL（日常生活動作）改善からQOL（生活の質）の向上を目標に日々取り組んでいる次第です。

また、リハビリ部門の院内での活動としては、理学療法士・作業療法士が、「がんサポーターチーム」の一員として他職種とのカンファレンスに参加し、がん患者サロンの運動の指導を行っています。糖尿病教室でも運動療法を患者さんに指導しています。さらに今年度、「呼吸サポーターチーム」が立ち上げられ、医師・看護師・臨床工学技士を含めたチームでの人工呼吸器装着患者に対する取り組みが始まりました。NST（栄養サポーターチーム）では言語聴覚士が栄養支援をする活動を行っています。

これから超高齢化社会に突入し、リハビリが必要な人が増えることは必然です。国民の2〜3人に1人はかかるといわれている「がん」にしても、がんのリハビリテーションが重要視されています。当院は、平成22年に「地域がん診療連携拠点病院」に指定され、平成27年4月に「がんセンター」が設立される予定です。現在、医師・看護師・リハビリスタッフが、「がんのリハビリテーション」の研修を受け体制を整えているところです。

今後は、「思いやり・信頼・安心」という当院の理念を忘れることなく、患者さんに満足度の高いリハビリが提供できるようにしていく考えです。

登録医医療機関を 掲示しました☆

共同診療登録医医療機関の一覧を1階ロビーに掲示しました。

徳島市民病院は、地域の医療機関と密な連携をとりながら、地域医療の向上に努めています。

301機関 344名(平成27年1月現在)



リレーフォーライフ

リレー・フォー・ライフとくしま2014（主催：公益財団法人日本がん協会／リレー・フォー・ライフとくしま2014徳島実行委員会）が昨年10月4日～5日に徳島市東新町商店街で開催されました。リレー・フォー・ライフは、がん征圧を目指しがん患者や家族、支援者らが共に24時間交代で歩く事で勇気と希望を分かち合うチャリティーイベントです。

徳島市民病院も、緩和ケアチームのメンバーを中心にたくさんの方々が参加しました。

市民病院チームもリレーウォークをスタート



トクシイちゃんも参加 大人気♥



皆様のご協力のもと、今年もリレーウォークやりとげることができました♥

リレー版 研修医日記

医者だけじゃない 研修医の進路

臨床研修医 丸山 悟史



昨年4月から研修医としての生活が始まり8ヶ月以上経過し、毎日様々なことを経験、勉強させていただいています。

さて、今私は研修医として市民病院にお世話になっていますが、3月までは大学の学生でした。大学では6年間にわたって様々な医学の講義や実習を受け、一応はある程度の水準に達したということで卒業を許され、医師国家試験を受験、合格し、晴れて研修医となって現在に至ります。

私は徳島大学を卒業したのですが、同学年には大体100人の学生がいました。卒業後は、北海道から沖縄までそれぞれ全国色々なところで研修医として研鑽を積んでいることと思います。研修を2年終えたら外科や内科、整形外科といった自分が最も興味のある科を選択し、その分野の専門家になるべくさらに経験を重ね、一人前の臨床医になっていく。これが大多数、むしろほぼすべての医学生、研修医の進路になるかと思っています。しかしながら、医者として臨床に携わる以外にも進路があります。それは医学研究者になるという進路です。

医学は大まかには臨床と研究に分かれており、臨床は病気の治療を行ういわゆるお医者さんで、直接患者さんを対象としています。一方で、研究は人の体はどういう構造なのか、どうやって動いているのか、また、病気になったときにはどんな異常が出てくるのか、その原因は何なのか、といった仕組みを対象としています。

現在治療法のない病気を治せるようにする、進行を食い

止める、そういったことを可能にするのが医学研究です。最近の例としては、2012年にノーベル賞を受賞された山中伸弥先生が研究、開発したiPS細胞が有名です。iPS細胞はほとんどすべての細胞になることができる万能細胞であり、様々な病気の治療、研究に応用できると期待されています。昨年9月にはiPS細胞を使って目の網膜組織を再生し、視力が低下した加齢黄斑変性の患者さんの視力を回復させることに成功しました。加齢黄斑変性は根本的な治療法はなく、視力を回復させるのは難しいと考えられており、画期的な治療法になりうる可能性があります。現在使われている薬や治療法も医学研究の成果であり、臨床はもちろん大事ではありますが研究がなければ医学の進歩はありません。

私は研究者になることを将来の進路の1つとして考えています。臨床も研究も最終的に目指すところは患者さんの病気を治すことであり、2年間の研修を通してどのような治療が臨床で行われているのか、患者さんはどういったことに困っているのか、現在の医学では何が出来ないのか、といった様々なことを広く学びたいと考えています。



(次回予告) 研修医 張先生日記



みなさんヨロシク

広報管理室長 岩本 正光



徳島新聞社を定年退職後、縁あって昨年12月から当院でお世話になっています。まだまだ戸惑うことが多いですが、職場の皆さんと一緒に当院の効果的な広報活動について知恵を絞っているところです。

ところで、ご存じの方もいると思いますが宮城県立こども病院の玄関ホールに絵本「おおきなかぶ」のブロンズ製レリーフが掲げられています。おじいさんやおばあさん、孫娘に加え、犬や猫らも一緒になってかぶを引き抜こうとしている場面です。

レリーフの製作者は、挿絵を描いた同県出身の彫刻家・佐藤忠良。かぶは「病巣」を意味しており、皆で力を合わせれば取り除けるとのメッセージでもあり、レリーフに見入ったり、触れたりする親子も少なくないとか。

当院にも様々な病を抱えた人が訪れます。その一人一人に寄り添い、全力で治療に当たるスタッフや職員を目の当たりにし、自分も誠実に仕事と向き合っていく決意です。

「一生懸命にする!」「チームのためにする!」ことを語っている。しかし、これがまったく伝わらない。子供たちは、グラウンドのボールよりも地面の虫けらに興味を持ち、視線はコートではなくお母さんに釘付けである(笑)。

これからも、子供たちに遊んでもらっていることに感謝し、大好きなサッカーにずっとかかわっていききたい、というのが私の大きな夢である。

経営企画課長 井内 康夫

ひとりごと



寝ても、覚めても 早いもので40年近くサッカーにかかわっている。現在は、地元小学校でサッカーのコーチをしている。気のせいかなサッカー好きの子供たちが増えたように思う。



お知らせコーナー

マザークラス♥

開催時間

クラス	時間	対象	内容
Aクラス	10:00 12:00	妊娠20週以降の方	お産の経過、ソフロロジー分娩 エクササイズ、呼吸法
Bクラス	14:00 16:00	Aクラスを受講した 妊娠32週以降の方	入院の時期と方法、おっぱいについて 病棟見学、分娩台体験

場所：地下1階 講義室

開催日：第2・第4火曜日

持参物：母子手帳、病院パンフレット(すてきな妊娠・出産)

申し込み方法：産婦人科外来にある参加申し込み書に必要な事項を記入し、申し込んでください。



がんサロン◆

市民病院では、がんと向き合う患者さんが自由に話し合える場所があります。

参加してみませんか?

日時：毎月第4木曜日 14:00～
場所：11階 患者支援センター
問い合わせ先：

1階 がん相談支援センター
088-622-5121(内2119)



救急救命教室♣

PUSH講習ってご存知ですか?

当院では、病院・学校等で胸骨圧迫(心臓マッサージ)とAEDの使い方をわかりやすく体験できる出前授業をしています。

胸をPUSH、AEDをPUSH、あなたの背中をPUSHしましょう。

対象：医療機関の方々

子どもも含めた市民の皆さん

時間：90分

講師：猪子美由紀(日本DMAT隊員)他

災害医療出前授業♠

30年以内に70%の確率で発災するだろう南海トラフ地震。医療機関、医療従事者はどのような役割を担わなくてはいけないか?そこで災害時派遣医療チーム(DMAT)を保有する当院では、災害医療の概念やトリアージ(疾患の程度で治療の優先順位を決める事)などを、出前授業しています。

対象：医療機関の方々、市民の皆さん

時間：1時間×2回

講師：森田敏文(日本DMAT隊員)他

問い合わせ先：事務部管理課庶務担当

Tel.088-622-9323 E-Mail kanri@hosp.tokushima.tokushima.jp

糖尿病教室★

糖尿病について興味のある方は是非ご参加ください。一緒に糖尿病について勉強しましょう♪お待ちしております☆

日時：毎週火曜日 14:00～15:00

場所：1階 栄養相談室



※診察などの都合により変更することがあります。